



分科会 4 ジェネリック医薬品の更なる普及のために ～最適なジェネリック医薬品の選択、そして医療費節減へ～

10月7日(日) 13:30～16:00 第4会場(アクトシティ浜松 コンgressセンター 4F 43+44会議室)

W-04-04

会員薬局間で在庫情報を共有化するシステムの導入事例

たじり やすのり
田尻 泰典

社団法人 福岡県薬剤師会

平成10年「かかりつけ薬局」の普及と広域基幹病院の外來処方せんの発行により、処方せん応需薬局数と薬局の備蓄医薬品数が急増。在庫医薬品数の増加による不良在庫の発生、発注業務の煩雑化、医薬品卸業者や薬局間の物流頻度の増大、という問題が発生した。医薬品物流の効率化と在庫医薬品数の圧縮、加えて患者サービス向上と医薬品流通におけるコスト削減を図るため、福岡県薬剤師会ではネットワークを利用した面分業推進対策、および面による処方せん応需のシステムづくりに取り組んだ。平成12年6月、全国中小企業中央会の補助事業である「情報技術活用型経営革新支援事業」に応募し採択され翌年2月、広範囲で利用が可能なVPCS(virtual pharmacy computer system)の完成にいった。VPCSはインターネットを介した発注機能を持ち、その発注データに基づき、医薬品備蓄情報を自動的にリアルタイムに更新できる唯一のシステムである。上記のようにVPCSは、同会の会員薬局の「発注管理」「備蓄共有」、取引卸間の「受注コスト削減」「受注ミス低減」など、保険薬局、医薬品卸相互にメリットのあるシステムである。VPCSは調剤システム処方IF共有仕様「NSIPS」に準拠したシステムとなっている。VPCSを導入・推進することにより、会員薬局間相互の情報共有とEOS(Electronic Ordering System:電子発注システム)率向上の推進を目指している。現在加入している保険薬局の数は、福岡県全体で350～400施設である。本システムについてはクラウド化をしており、薬局側で用意するアプリケーションソフトは必要なく、Webブラウザ【Internet Explorer】【Netscape】【Safari】【Firefox】【Google Chrome】等があればどのPCからもアクセス可能である。「発注管理」機能は、卸が持っている発注の履歴情報がVPCSにも蓄積され、容易に発注操作が可能となっている。平成19年の「後発医薬品の安全使用促進アクションプログラム」により、ジェネリック医薬品使用促進が求められることから、本来の備蓄検索機能に先発医薬品に対応するジェネリック医薬品のデータベース(毎月更新)を搭載し、ジェネリック医薬品を検索する機能を持たせ、検索結果として表示されたジェネリック医薬品の該当エリアでの医薬品卸の納入実績や保険薬局の購入実績、発注件数等がわかるようになっている。近隣エリアでの納入・購入実績がわかるため、安心してジェネリック医薬品を発注をすることができる。「備蓄共有」機能は、これまでジェネリック医薬品を使用促進する際に、阻害要因となっていた在庫の問題を解決するためのものである。ネットワーク会員の中といった仮想空間で医薬品の備蓄情報を共有化するシステムであり、本機能を利用することにより、どこの薬局にどういった医薬品の在庫があるかわかるため、備蓄センターを建設することなく、「みんなの在庫が私の在庫」を実現することができる。掲示板に、ある医薬品の不要在庫を処分したい旨を掲載すると、別の薬局がその医薬品を発注する際に、不要在庫を処分したい薬局があることをアラートで知らせてくれるため、近くの薬局から取り寄せることも可能である。また、定期的に服用している医薬品に関しては、発注日指定の予約発注ができるなど、発注漏れを防ぐ仕組みもある。